

文京学院大学中期計画

B's Vision 2029



100周年を越えた 未来に向けて



文京学院大学は、2024年10月に学院創立100周年を迎え、今、新たな一步を踏み出しました。ここに、これからの5年間の中期計画「B's Vision 2029」を策定しました。

策定にあたり、本学の建学の精神を踏まえた現代社会における「自立と共生」のあり方、本学が果たすべき社会的責任について議論を重ねました。予測不可能な現代社会の変化の中で、自身の回りにある社会課題を発見し、主体的に解決しようとする人材を育成するという使命と具体的な方向性をB's Vision 2029に提示します。

このB's Vision 2029には、教務、入試、キャリア、研究、社会貢献、DX、財務の7つのワーキングチーム(WT)から大学に提出された答申の内容が盛り込まれています。WTは2022年度より、教職協働でそれぞれの領域の視点から大学の現状の課題と今後の方向性を検討してきました。答申には、この5年間で達成するには余りある膨大な情報が含まれ、また少し時間が経って大学を取り巻く環境が変化し、達成済となった事項もあるため、2024年度末にすべての領域部署の関係者にインタビューをおこない、内容の妥当性を検討しました。

現在、本学では専門職大学院の福祉医療マネジメント研究科が2年目を迎え、マネジメント能力と実践力を育成しています。さらに、2026年4月の開設を目指してヒューマン・データサイエンス学部の設置申請書を提出しました。現行の学部や大学全体においても具体的な教育改革を検討しています。本学は教育理念に基づき100周年を越えた次の未来を見据えて、いま目の前にいる学生や卒業生たちに、社会環境の変化に応じた学びの場を提供していきます。



ごあいさつ



B's Vision 2029策定に向けて

文京学院大学学長 福井 勉

本学は、「自立と共生」という建学の精神を礎に、学問の探究と社会貢献に努めて参り、昨年度、創立100周年を迎えました。現在の我が国における少子化の進行は、高等教育機関にも急激な変革を迫っています。その環境の中で、未来を見据えた上で持続的発展を実現するため、中期計画「**B's Vision 2029**」を策定しました。

この計画は、予測不可能な時代変化の中で、社会の新しい課題を発見し主体的に解決しようとする人材を育成することを目指し、新たな学問領域の開拓、教育組織の再編成、グローバル視点の強化などを柱に、ひとやものと協働しながら社会で自立できる人材育成を誓い、志ある人に学びの機会と可能性を提供することを使命としています。また**B's Vision 2029**策定のプロセスにおいては、本学の教職協同の総力体制で施行できたことは新たな一歩であると感じています。

本学は、このビジョンを通じて、多様な価値観を尊重し、知の共同体としての役割を果たしながら、新たな時代の教育と研究の在り方を創造して参る所存です。次の100年へ向けて、新たな挑戦を歩んで参ります。

文京学院大学中期計画の概要

建学の精神:

「自立と共生」

ミッション:

ひとやものと協働しながら社会で自立できる人材を育成します / 志(こころざし)ある人に学びの機会と可能性を提供します

B's Vision 2029: 予測不可能な時代変化の中で、社会の新しい課題を発見し主体的に解決しようとする人材を育成するために、大学として以下の4つの方針を掲げ教育力日本一を目指します

1. 地球市民を育成します 2. ストレス耐性の高い人材を育成します 3. 学ぶ喜びのある教育環境を提供します 4. 生涯にわたる学びをサポートします

教育

- ・教養教育プログラム((B's Standard)の設置
(課題解決学習、初年次・キャリア教育、グローバルコミュニケーション等)
- ・教育課程編成、授業体制の見直し(授業時間・回数改編)
- ・学習成果の可視化と個別学習・教育の最適化
- ・多様な学生を対象とした教育の実施
(社会人・18歳・外国籍人材の受け入れと融合教育、ダイバーシティ推進)

キャリア

- ・学部横断キャリア基盤教育の強化(初年次から主体的に考え行動する教育)
- ・開講授業におけるキャリア資質形成要素の明示
- ・キャリア支援体制の拡充
- ・アセスメント結果に基づく体系的個別支援

募集

- ・高大社接続(地域における探求学習、ラーニングサポート等)の実施。
- ・戦略的広報計画及び実施体制・組織の整備
- ・IR分析に基づく戦略的募集計画及び入試改革の実施

社会貢献

- ・文京区、ふじみ野市等における地域貢献活動の促進、地方との連携拡大
- ・地域・企業との連携推進機能強化
- ・学生ボランティア活動の単位化促進、市民向けプログラムの拡充
- ・リスケリング、リカレント教育、履修証明プログラムの検討
- ・社会連携・社会貢献活動の情報公開

研究

- ・研究支援センターの整備
- ・共同研究体制の強化(学内・外部組織との研究連携の促進)
- ・学内研究制度の再構築(在外研究・リサーチアシスタントの導入等)

DX

- ・教育DXの推進(LMSやポートフォリオによる学修成果可視化、マイクロレテンションなどによる教育の質保証、個別最適化学修の支援等)
- ・学生サービス向上と業務効率化(AIチャットボット、定型業務へのAI活用、データ駆動型意思決定の支援システム基盤の整備)
- ・デジタル人材育成のための施策立案

教育改革

ヒューマン・データサイエンス学部の新設
次の時代を見据えた全学の継続的・横断的な教育システムの見直しと改革、日本語教育導入の検討

安定的な財務基盤の確立と内部質保証の維持強化

2029年までの大学のミッション

— 建学の精神「自立と共生」を基盤として

ひとやものと協働しながら社会で
自立できる人材を育成します

他者との協働性

よく知る人だけでなく見知らぬ他者ともコミュニケーションをとりながら問題解決ができる

もの(対象物)との協働性

人がつくった道具、ことば、概念、AI等を媒介して、目的を達成するために働きかけることができる

志(こころざし)ある人に学びの
機会と可能性を提供します

志(こころざし)ある人

明確な将来像をもち学ぶ意欲のある人はもちろん、自身のキャリアを探索している人、現在の状況を変えたい、ステップアップしたいと考えている人に、学びの環境と新しい学びを通じた自身のライフキャリアの構成・再構成を支援する

教育方法

対面授業を主体としながら、必要に応じてオンライン授業やコンテンツなどを併用し、学びの機会と可能性を拡大する

建学の精神
大学のミッション

B'sビジョン2029
(大学の中長期計画)

文京学院事業計画

B's Vision 2029

予測不可能な時代変化の中で、社会の新しい課題を発見し主体的に解決しようとする人材を育成するために、大学として次の4つの方針を掲げ教育力日本一を目指します

- 1 地球市民を育成します
- 2 ストレス耐性の高い人材を育成します
- 3 学ぶ喜びのある教育環境を提供します
- 4 生涯にわたる学修をサポートします

地球市民

- 国籍、考え方、文化、特性などの違いを超え、誰もがその背景によらず人として尊重される社会の実現を目指し活動しようという意識と行動力をもつ
- 誰とでもコミュニケーションや協働作業ができる、またそれを実現するための工夫を惜しまず、新しいものを創り出そうとする態度をもつ

ストレス耐性の高い人とは

- 日常生活の出来事に関心をもち、その中の課題や人間関係に自ら深く関わろうとする (commitment)
- 自分が直面している出来事や問題を、良い結果を見据えて目標を立て努力する (control)
- 変化やハプニングを恐れず、どのような経験であれ挑戦や成長の機会ととらえて行動する (challenge)

学ぶ喜びのある教育環境

教職員は次のような学修者の態度を形成するために、学修のための社会的、物理的、心理的環境をつくります

- 学修者が主体的に学び、また積極的に次の学修課題を見つけることができる
- 教職員や仲間と協働で問題解決し、他者と助け合い知を共有する喜びを感じられる
- 学修者が知識や技能をどの程度自分のものとしているか、さらにどのように学修すべきかを判断できる

生涯にわたる学修

- 学修者の年齢や特性、時間や場所を問わず多様な教育を提供すること
- 卒業生や社会人のリスキリングや学び直し、情報交換の場を提供すること
- 教育の受け手としてだけでなく、教育の担い手として後輩の支援・育成にかかわること

B's Vision2029 ロードマップ

| | | 2025 | 2026 | 2027 | 2028 | 2029 | |
|------|-----------------|--|-----------------|--------------------------|-----------------------|---------|--|
| 教 育 | 教養教育プログラムの設置 | B's Standardの設置(グローバルコミュニケーション・キャリア教育等の充実) | | | | | |
| | 教育課程編成・授業体制の見直し | 授業時間100分の13回への移行 | | 履修規程・要項の全学的統合 | | 開講学期の検討 | |
| | 学修成果の可視化とその活用 | 学修成果の測定指標の整備と分析 | | | | | |
| | 多様な学生を対象とした教育 | 学生サポート体制整備と学生参画の検討 | | 多様な学生に対応する教育方法・ダイバーシティ推進 | | | |
| キャリア | キャリア基盤教育の強化 | B's Standardと連携した社会人基礎力・基本マナー教育の実質化 | | | | | |
| | 授業とキャリア資質の関連の明示 | 授業のキャリア科目としての位置づけとシラバスへの明記 | | | | | |
| | キャリア支援の拡充 | ポートフォリオ(BCAS)に基づく面談システムの構築 | | メンター職員制度の検討 | 階層別キャリア支援 (EQ向上・資格取得) | | |
| | アセスメントに基づく体系的支援 | キャリアアセスメントの導入と個別支援の検討 | | | | | |
| 募 集 | 高大社接続の実施 | ラーニング・サポーターの参画促進 | 学生・教職員による地域教育接続 | | 中高大社接続戦略に対応した入試制度の検討 | | |
| | 戦略的広報の実施 | 戦略的広報計画・実施体制の整備 | | | | | |
| | 教育方針に基づいた募集の実施 | IR分析に基づく学修傾向と募集戦略の検討 | | アドミッション・オフィサーによる入試戦略 | | | |
| 社会貢献 | 地域・地方への貢献活動の促進 | 文京区・ふじみ野市等における貢献活動の促進 | | 地方自治体等との連携の拡大 | | | |
| | 地域・企業との推進機能強化 | 社会連携活動の情報公開 | | | 地域・企業との推進機能の強化 | | |
| | 学生ボランティア活動の促進 | 学生ボランティア活動の単位化 | | | | | |
| | 公開講座・リカレント教育の拡充 | 教育・単位証明プログラムの検討 | | | 市民向けプログラムの拡充 | | |
| 研 究 | 研究支援センターの整備 | 研究教育センターの機能充実 | | | | | |
| | 共同研究体制の強化 | 共同研究費配分の再検討 | 他大学等との高度な研究連携 | | 学術振興研究費設定の検討 | | |
| | 在外研究制度の再考 | | | | 在外研究規程の再検討 | | |
| | リサーチアシスタント制度の導入 | | | | RA制度の導入の検討 | | |
| D X | 教育DXの推進 | ポートフォリオシステムの導入 | LMSでの学習履歴の収集・分析 | | | | |
| | 学生サービスの向上と業務効率化 | IR基盤の確立 | | 定型業務へのAIの活用 | | | |
| | デジタル人材育成 | 定型業務へのAIの活用 | | | データ人材育成のための施策立案 | | |



BUNKYO GAKUIN
100TH ANNIVERSARY
SINCE 1924-2024

あなたと共に未来を拓く Change Challenge Community

立京学院大学 Bunkyo Gakuin University